

公的年金保険制度を題材としたモデル授業案（熟慮型：1時間目）

○授業の目標

- ・人生、とくに老後の生活にはどのようなリスクが潜んでいるのかを理解する。
- ・リスクに対してどのような考え方があるのかを理解する。
- ・支え合うというのはどういうことなのか、またその周辺にある課題について気付く。

《タイトル：年金をどうするのか？ 政策を選んでみよう！》

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	場面設定	【説明】 ・本時は架空の国を設定することを知る。 ・設定する国の内容を具体的に理解する。 人口40人…高齢者60% 生産年齢人口30% 学生10% 主な産業…ものづくり 10% 農業 2% 運ぶ仕事 20% 売る仕事 68% 通貨…円 物価…2020年の日本の物価と似ている 財政赤字…約1,000兆円 ・国の名前をみんなで決める	・国の名前はこの授業を実践するときの季節を表す名前にする。 例えば春に授業を行うならば「サクラ国」、夏ならば「スイカ国」というように。
展開1	カードでキャラクターを設定する	① これから配られるカードの役になりきることを知る。 カードの内容は次の通り <高齢者> 仕事は引退している 貯金はない 年金を年間200万円もらっている 普通の生活をするためには年間で300万円必要 <労働者（生産年齢人口）> 年収300万円 <支出> 生活費：200万円 貯金：50万円 納税：30万円 保険料：20万円	・「高齢者」のカードが配られた者はカードを見て毎月使える金額を計算するように指示する。 ・労働者のカードをもらった者は年収と支出のイメージを共有させるように指示する。 ・配布するカードの数は人口構成の通りになっている。

<p>展開 2</p>	<p>高齢者の生活を支える仕組み</p>	<p>① 長生きをしたときに、自分の力だけで生活することが難しいことを理解する。 ② この国では高齢者に年金を給付するための保険料を現役世代が支払うという仕組みになっていることを理解する。 ② カードを見て、このクラスの国では若者がどのくらい負担しなければいけないのかを計算する。 例) 40人のクラスの場合 高齢者は24人 高齢者が必要としているお金は300万円×24人で7,200万円 高齢者は一人あたり年間で100万円の生活費がすでに不足している。 労働者12人が納める保険料は240万円</p> <p>④ 投票</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が投票用紙をもらう ・投票用紙には次のように書かれている 《投票用紙》 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>保険料を毎月30万円納めてください Y/N 理由を一言で表現してください ()</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全員「YESかNOのどちらかに○印をして投票する」 <p>⑤ 開票</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開票結果を見て意見を述べる <p>例) Y・・・24票 (高齢者全員) N・・・16票 (労働者+学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者「働いていないのだから収入がない。労働者に支えてもらわないと生きていけない」 ・労働者「保険料を増額されてしまうと私たちの生活が苦しくなる」 ・学生「自分で稼いだお金は自分で使いたい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に発問を繰り返しながら「高齢者生活を支える仕組み」について理解させるよう心掛ける。 ・投票するときに、なぜその選択をしたのかという理由を可視化させるように留意する。 ・自分の意見と同時に他者の考えたことも共有できるよう留意する。
<p>展開 3</p>	<p>どのような工夫が必要なのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・投票用紙に書かれた意見を読み上げ、立場によって意見が異なることを知る。 ・いろいろな考え方があることに気づく <p><考え方1> 高齢者に生活レベルを下げてもらおうという考え方</p> <p><考え方2> 若者はしっかりと保険料を納めてほしいという考え方</p>	<p>この考え方は教師が示すのではなく問答を繰り返す中で生徒に発言させる</p>

		<p><考え方3> 国は借金をしてでも高齢者を支えなければいけないのではないかという考え方</p> <p><考え方4> 高齢者も働くことで収入を得ればよいではないかという考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして保険料を納めなければいけないのか？という問いを共有する。 	
<p>まとめ</p>	<p>何が問題なのか？ どのようなことを考えなくてはいけないか？ を確認する。</p>	<p>① 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架空の国の保険料のことを考えたことを確認する。 ・ この国は少子高齢化が極端に進んでいること ・ 高齢者には高齢者の意見が、若者には若者の意見があることを確認する。 ・ 皆が幸福を求めていることも確認する。 ・ どうして保険料を納める必要があるのか？ <p>という問題をクラス全員で共有したことを確認する。</p> <p>② 次の時間に考えることの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような工夫をすればよいのかを皆で考えることを確認する。 	

《配布するカードのイメージ》

〈高齢者〉

- ・ 仕事は引退している
- ・ 貯金はない
- ・ 年金を年間200万円もらっている
- ・ 普通の生活をするためには年間で300万円必要



〈働く世代〉

収入

- ・ 300万円

支出

- ・ 生活費： 200万円
- ・ 貯金： 50万円
- ・ 納税： 30万円
- ・ 保険料： 20万円



投票用紙

保険料を毎月30万円納めてください

どちらかに○印をつけてください

Y

N

理由を一言で表現してください

()

公的年金保険制度を題材としたモデル授業案（熟慮型：2時間目）

《タイトル：サクラ国を救出せよ！》

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	前の時間の復習と本時の目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ保険料を納めるのかという問いを共有したことを振り返る。 ・この架空の国（仮に「サクラ国」とする）が危機的状況にあることを認識する。 ・本時の目標を「サクラ国を救え！」というテーマに定めたことを共有する。 ・役割分担は前時と同じことも合わせて理解する（高齢者、生産年齢人口等々） 	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間に行った投票結果を分析したプリントを作成して配布する。
展開 1	似たような国はないのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進み巨額の財政赤字を抱えている国でサクラ国の参考になる国はないのかということを考える。 ・すぐに「日本」ということに気がつく ・日本の現状を分析し、サクラ国の政策にどのように活かすことができるかを考えることが本時の問題意識であることを感じ取る。 ・日本のデータを分析する ・Q1「日本は昔から核家族が多かったのか？」を考える。 A：資料【家族をめぐる代表的な変化】 https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/structure/structure02.html 資料から読み取れることを考える ・Q2「日本はどのように高齢者の生活を支えているの？」 A：【賦課方式】 https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/finance/index.html 資料から読み取れることを考える ・Q3「どうして日本は積立方式でないのか？」 https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/finance/finance02.html/ ・Q4 賦課方式の課題は何か？ https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/finance/finance02.html ・Q5 課題を克服するためにどのような工夫をしているのか？ ・Q6 ほかにどのようなことを調査してみたいのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラ国は複雑な変数を除いたモデルのようなイメージで考えていることを留意して指導する。 ・教師が指示しなくても、これは日本のことを考えているのかもしれないという生徒間の雰囲気をつかみ取る。 ・資料を単なる数値の変化として読み取るのではなく、資料全体が何をメッセージとして発信しているのかを読み取らせるよう留意する。

<p>展開 2</p>	<p>サクラ国を救えプロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・似たような国としての日本の調査が終了したことを理解する。 ・日本の事例をもとに「サクラ国を救えプロジェクト」に取りかかる ・サクラ国の何が問題なのかを明らかにする ・高齢者の意見と若者の意見が対立していた場合、どのように公正に話し合いをすすめることができるのかを考える。 ・若者から高齢者にメッセージを作成する ・同時に高齢者から若者にメッセージを作成する <p>メッセージについて</p> <p>【画用紙を配布して記入する】</p> <p>【記入後黒板に貼るという指示を受ける】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の現状を参考にして新たな政策を考えさせる。 ・自分の要求を主張するというのも大切。一方で、助け合うという精神がないと持続可能な社会の形成は難しいということも理解させる。 ・メッセージをシャッフルして、時間の許す限り黒板に貼って紹介する。
<p>展開 3</p>	<p>日本の若者にメッセージを送る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラ国の政策選択を終えて、日本の若者にメッセージを送る ・ワークシートに各自メッセージを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実は自分自身に向けてのメッセージだということを教師の口からは言わない。生徒に言わせるよう留意する。
<p>まとめ</p>	<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラ国は日本と同様に高齢化が進んでおり、複雑な要素をすべて排除した単純な仕組みで社会保障を考えたということを理解する。 ・日本の社会保障を利己的な視点と利他的な視点の両面から考えたことを理解する。 ・新たな問いはどのようなものなのかを認識する。 	<p>あらゆる他の条件を一定にした条件でサクラ国という仮の国における社会保障を検討した。このモデルでの経験を日本の政策選択に活かすことができたかどうか留意しながら振り返りをさせる。</p>